管内肉用鶏農家における伝染性気管支炎の衛生対策及び経済効果

東部家畜保健衛生所　髙村祐士（たかむらゆうじ）

伝染性気管支炎(IB)はIBウイルス(IBV)によって引き起こされる疾病で、主に呼吸器症状を示し、ウイルス株によっては腎機能障害を引き起こす。また、発育不良や大腸菌等の二次感染を誘発する。平成30年2月にIBの発生があった管内肉用鶏農家における衛生対策及び経済効果を考察した。

【発生状況】

肉用名古屋種41,000羽を2農場（A農場：4鶏舎計25,000羽及びB農場：4鶏舎計16,000羽）で飼養している農家から、B農場の1鶏舎で死亡羽数が増加したとの通報があり、農場立入及び病性鑑定を実施した。

死亡鶏２羽を病性鑑定材料として、病理、細菌及びウイルス学的検査を実施した。

【検査結果】

病理解剖では腎臓の腫大が共通して認められたが、その他の臓器には著変は認められなかった。病理組織学的検査では共通して肝臓や腎臓に多発性の膿瘍や巣状壊死が認められ、腎臓においては間質性腎炎や尿細管の拡張や変性が認められた。細菌学的検査では複数の臓器から大腸菌が検出された。ウイルス学的検査では腎臓からIBVが分離され、分離されたIBVを遺伝子解析した結果JPⅡに分類された。

【対策及び考察】

本農場では初生時にJPⅢ、7日齢でJPⅠの2種類のIBワクチンを接種していた。B農場においてIBが発生し、JPⅡと分類されたので、A農場の鶏群にはJPⅡのワクチンを追加接種した。また、A農場とB農場の作業体制を見直した。その結果A農場でIBが発生することはなかった。発生のあったB農場においてもワクチンプロトコールを初生時JPⅡ、7日齢JPⅢ、14日齢JPⅠへと変更した結果、その後の導入ロットにおける発生は認められていない。

発生鶏舎では育成率、出荷時体重及び飼料要求率はそれぞれ95.9%、2.43kg及び4.33であった。非発生鶏舎ではそれぞれ98.2%、2.44kg及び4.23であった。1万6千羽あたりに換算すると発生時には出荷重量1,032kg減、飼料摂取量0.8トン減に相当する。出荷鶏1kgあたり500円、飼料1トンあたり5万円とすると約48万円の損失となる。ワクチン価格は5000ドーズで約4,000円なので十分な経済効果が得られると思われる。

昨今、愛知県内では散発的にIBの発生が報告されている。そのため、本事例を参考にしてワクチン未接種農家等に衛生対策の必要性を周知していきたい。